

いなわしろ

力を合わせてひっばれ、ひっばれ！

議会だより



平成22年7月臨時会・9月定例会

9月定例会のあらまし・21年度決算状況……	2～3
予算決算審査特別委員会……………	4～5
議案審議……………	6
臨時会……………	7
一般質問 6人が登壇……………	8～13
委員会レポート……………	14
あなたの声を審査しました……………	15
2つの特別委員会設置される……………	16
議会行事……………	17
町民の声（千里地区 小桧山ナミ子）……	18

No.120

平成22年10月10日
発行：福島県若田町議会



引き続き簡素で効率的な財政運営を!

認定こども園開設予定の川桁保育所



あらまし

平成22年第5回猪苗代町議会定例会(9月定例会)は、9月6日から16日までの11日間にわたり開かれました。町から提出された議案等

- 自動車物損事故による専決処分の報告1件
- 21年度の決算認定3件
- 22年度補正予算15件
- 財産の取得1件
- 人事案件2件
- 過疎地域自立促進計画の策定1件

提出された議案等について審議の結果、すべて原案どおり認定・可決となりました。

一般質問は6名の議員により2日間にわたり行われました。

平成21年度の決算を認定

平成21年度 会計別決算額		
会 計	歳入決算額	歳出決算額
一 般 会 計	75億2,587万円	72億6,987万円
特 別 会 計	国民健康保険	17億4,739万円
	後期高齢者医療	1億5,358万円
	老人保健	1,382万円
	介護保険	12億2,131万円
	簡易水道事業	1億4,482万円
	下水道事業	6億9,248万円
	特環下水道事業	1億6,306万円
病院会計	農業集落排水事業	2億6,730万円
	収益的収支	6,889万円
水道会計	資本的収支	13億6,504万円
	収益的収支	3億 165万円
	資本的収支	995万円

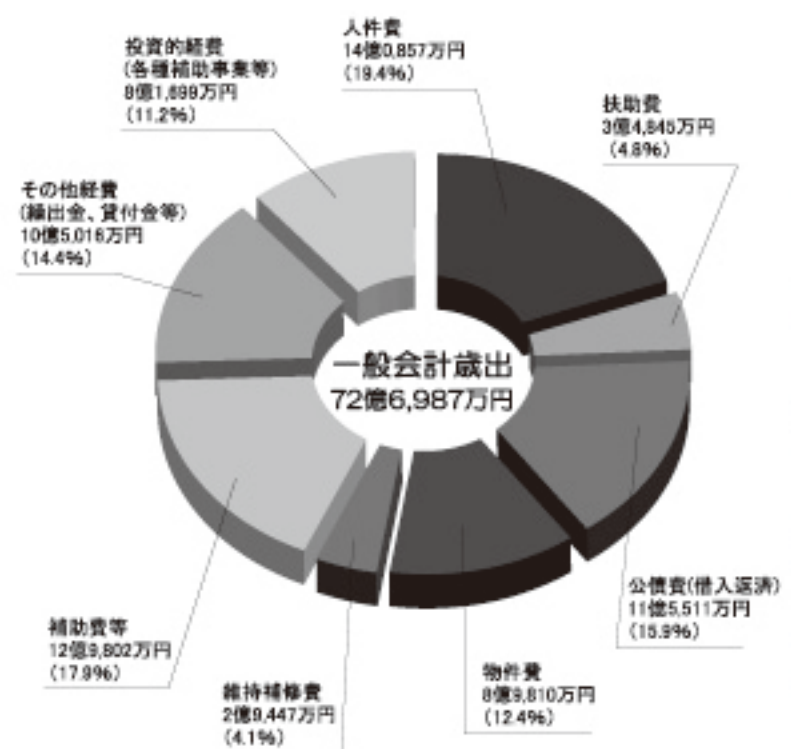
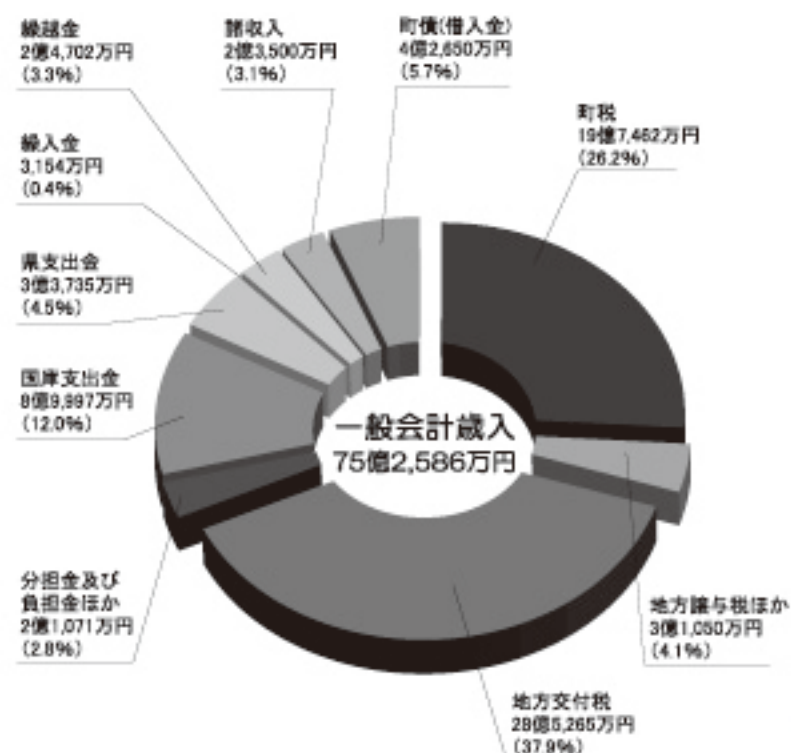
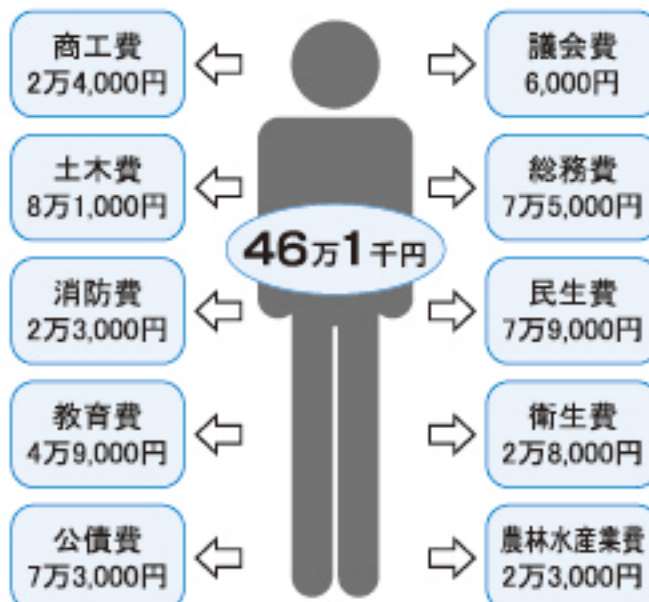
監査意見(抜粋)

平成21年度各会計及び基金の運用状況について、審査に付された各会計の決算書はいずれも関係法令等に基づいて作成され、会計経理は正確であり、予算の執行についても有効適正に執行されているものと認めた。

度より増加した。歳出では、地域活性化臨時交付金等の活用により小中学校パソコンの整備、町営住宅や町道整備、旧月輪小学校体育館解体などの事業に取り組むことができた。長期的健全財政を確保する観点からも、引き続き簡素で効率的な財政運営が図られるよう、今後とも努力されることを望み決算審査の意見とする。

代表監査委員 折笠光雄

町民(15,721人)一人当たりの主な使い道(一般会計)



町の財務を「議会がチェック」

21年度決算

一般会計

歳入

《町税》

問 町民税、固定資産税の不納欠損額が多いがどのような方がどのような理由で納められないのか。

答 最近の経済状況で雇用状況が悪い。夫婦共働きだったが失業し、なかなか再就職が難しいという状況にあるという方が多い。固定資産税についても町内・町外に問わず納められないという方が多い状況である。

《地方交付税》

問 地方交付税が増額したのは、今までの町債の借り方がこのような結果となったのか。

答 国は緊急経済対策で予算の枠を拡大しており、国の交付税の総額

《国庫支出金》

問 土木費の国庫補助金1千721万2千円が収入未済額になっているのはなぜか。

答 都市計画費補助金と地域住宅交付金であり、22年度に繰越しするの今年度の収入となる。

《諸収入》

問 町の預金金利の予算額75万円に対し、収入済額が44万円になっているのはなぜか。

答 普通預金・定期預金ともに利率が低く、当初予算に想定した額にまでならなかった。

歳出

《農林水産費》

問 松くい虫により山林が荒らされているが、

町の現状はどうなのか。防除効果は確認しているのか。

答 松くい虫の被害を会津地方森林組合が調査し、町が同組合に駆除を委託している。春秋2回、カシノナガキクイ虫は1回駆除した。効果が表れたものを確認してから実績として報告を受けている。

《森林環境学習推進事業補助金》

問 森林環境学習推進事業補助金とは何か。椎茸原木栽培も含まれるのか。

答 森についての知識を高めることを目的に、森林学習の活動計画を学校で立案し実行している。椎茸栽培については把握していないが、講師を呼んでの学習活動での謝礼、交通費、写真代、消耗品費などである。

《商工観光費》

問 商工費の雇用促進住宅空き家補修工事は60戸全部行ったのか。

答 雇用促進住宅の室内リフォームを必要とする分

だけ行った。

《極上の会津プロジェクト》

問 極上の会津プロジェクト協賛負担金を(社)猪苗代観光協会とは別に支出しているが、今後はどう展開していくのか。

答 極上の会津プロジェクト事業は平成18〜22年まで会津を5つのエリアに分けて実施してきている。今後の事業展開により負担金の支出等も変わってくるが、考えられるが、現時点では明確なことはない。

《水上遭難対策事業費》

問 水上遭難対策事業費について、昨年水上バイクの事故があったが対策・指導はしているのか。

答 昨年10月に死亡事故があった。猪苗代エリアについては喜多方建設事務所が安全利用のためのゾーニングを行った。また本町水上遭難対策協議会が中心となり、郡山・若松エリアとの全体会議を実施し、全体的な取り決めが必要となったことから、事業者向け、利用者向

《教育費》

問 中学校のパソコン費借料910万円は毎年発生するのか。

答 中学校パソコンについては昨年度国からの交付金により一部購入したが、リースしなればならない分もある。で賃借料は今後も発生する。



交付金により購入することができた中学校のパソコン

猪苗代中	購入	21台
東中	購入	47台
吾妻中	購入	5台
合計	購入	73台
	リース	0台
	リース	50台
	リース	76台
	リース	91台

問 地域食育推進事業費の具体的内容は。

答 国の支援により実施したもので、学校での食育、各種会議開催、講演会、先進地視察、実態調査等を行い、地産地消への取り組みと

22年度補正予算

一般会計

歳入

《国庫支出金》

問 無線システム普及支援事業補助金は達沢地区の何戸が該当するのか。

答 達沢地区全戸を対象とする。

歳出

《総務費》

問 工事請負費で役場庁舎内の非常用発電機修理とあるが、庁舎が停電の場合この発電機で十分に対応できるのか。

答 庁舎にある発電機は停電になって電気が止まった場合、まずバッテリーで起動し、デューゼルにより稼働する。発電機自体が燃料タンクを搭載しているのでタンクが満タンであれば24時間稼働する

《国民健康保険特別会計》

問 連合会負担金174万円の増額について、当初予算でも計上しているが、さらに増額補正する理由は。

答 平成23年度からレセプトが電子化されることから連合会でシステム構築に向け作業中であり、構成団体の取扱量に匹敵した負担金となっている。

《介護保険特別会計》

問 スプリングラ―等整備事業費442万円とあるが、何力所のグループホームで整備するのか。補助率は。

答 中の沢グループホーム1カ所である。補助率100%の国庫補助事業を利用し設置する。

《下水道事業特別会計》

問 下水道管理費の公課費3千770万円の内訳は。

答 使用料金、建設費、委託料の消費税であり、事業確定により金額が

《病院事業特別会計》

問 現在の基金はいくらか。

答 4億5千万円である。旧町立病院解体費及び設計管理費を繰入金に戻す理由は。

答 旧病院の耐震はBランクで問題なく、建物・駐車場も広いので解体せずに普通財産として再利用を検討している。



解体せずに再利用が検討される旧町立病院

過疎地域自立促進 計画の内容を問う

問

事業計画の中に、「野口英世博士ゆかりの地」事業で4億円が計上されているが、以前の歩いて暮らせる町づくり事業の名前を変えただけの同じ事業で、実行するには住民の理解が必要では。

答

過疎からの脱却計画であり、6年間のなかで出来るものを全て上げ、見直しをし、住民との理解を得ながら実行してゆく。

問

この計画の6年間総事業費合計は69億円であるが、財源の確保は可能なのか。

答

全ての事業を実施するわけではない。あとから追加することが困難であり、あらかじめ認可を得た事業を実施するので、過疎債等有利なものを使い、その年の財政状況を見ながら実施していく。

問

過失割合はどのようになっているのか。

答

町の消防ポンプ車が交差点を通過中、相手方が交差点で一時停止を無視し、車両の左後方に接触したもので、町が1割、相手が9割である。

自動車物損事故 の和解内容は

除雪ドーザー 購入基準は

購入基準は

何を最優先に購入しているのか。

答

建設機械整備事業で、除雪ドーザー（雪害機械仕様）付加仕様を条件に入札を行った。

主な質疑

問

財政調整基金からの繰り入れではなくて、補助金か交付金はないのか。

答

過疎自立促進計画の中に組み入れており、同意が得られれば、過疎債を充当させたい。

問

9月議会では遅いのか。

答

川東地区認定こども園は平成24年開園予定しており、造成工事、開発許可等については年度内竣工を目指しているため、今次の臨時議会で提案している。

問

急がなくてはならないのはわかるが、町民との話し合いが足りないのではないのか。

答

いろいろな機会できまざまな意見を聞いている。今後文書または説明会を開催していく。

問

工事請負費4千523万6千円は造成と地質調査か。造成費と土留めの擁壁、安全対策ネットフェンス、排水対策に要する費用である。

審議した議案

自動車物損事故による損害賠償及び和解

（消防ポンプ車と一時停止を無視した相手方との車両事故についての損害賠償、和解についての報告）

財産の取得（賛成全員 可決）

（除雪ドーザー13t級 1台の購入）

猪苗代町過疎地域自立促進計画の制定（賛成多数 可決）

（過疎地域の自立促進のため「猪苗代町過疎地域自立促進計画」を策定する）



除雪ドーザー

五十嵐ミエ子 議員

認定こども園について、計画ははつきりしているのに、内容を知らない人が多すぎる。見通しはあっても住民の理解を得られないままに進められることに納得できないので反対である。



賛成

反対

渡辺 二公 議員

幼保一元化については幼稚園・保育所双方から望ましいという議論がされてきていることから、この議案には賛成である。子供たちのためにいい園舎を造っていただきたい。

臨時会(7月16日)

川東地区「認定こども園」整備に着手

審議した議案

●一般会計補正予算（賛成多数 可決）
（内容）川東地区認定こども園整備のための園舎敷地造成工事等に関する経費の計上（7,572万8千円の増額補正）

* 開発許可手数料、完了検査手数料 33万2千円
* 園舎増築工事設計業務委託、設計測量委託 1,867万6千円
* 造成工事にかかる工事請負費 4,523万6千円
* 園舎用地買収に係る公有財産購入費 1,148万4千円

あらまし

平成22年第4回臨時会は7月16日開催され、一般会計補正予算について審議しました。五十嵐ミエ子議員、渡辺二公議員による討論が行われ、採決の結果「賛成多数」により可決しました。



認定こども園として生まれ変わる川析保育所

問

施設の内容は、既存の保育施設を利用し、不足する園舎の部分3クラス、遊戯室、長時間保育室、調理室、玄関ホール、トイレであり、840㎡程度の建物とする計画で委託を進めていきたい。



長沼 一夫 議員

南部地区土地区画整理事業 廃止後の計画を示せ

長沼

南部土地区画整理事業については、都市計画変更・決定により事業廃止の告示を受けたことに伴い、当該地区住民に対しどのように説明し理解を求めたのか。また、本事業に投資した経費（補助金）はどうなるのか。

答弁

当該地区住民への対応としては、ブロック意見交換会及び意向調査、事業区域縮小案の地権者説明会及び個別訪問を実施した。その後、猪苗代町公共事業評価委員会において事業中止と判断されたことから、それらについての地権者説明会を2回開催し理解を求めた。

住民に予算提案権を

渡辺

住民からの提案により一定額の予算を確保できる「予算提案権の付与」について、実施市町村も現れているので当町でも取り入れてはどうか。

答弁

地方自治法では、自治体の予算の提案権は町長の権限によるものとされている。しかし、町の振興計画実現のためには、住民の参画と協働が不可欠である。行政主導のまちづくりだけでなく、地域住民が自ら提案し事業へ参加するという新たなまちづくりの手法も積極的に行うべきである。住民の皆さんの考えを施策に反映させるという仕組み作りや積極的に事業参加ができる手法について十分に検討していきたい。



渡辺 真一郎 議員

長沼

事業に投資した経費は、2億8千915万円であり、うち国庫補助金は9千552万円である。この補助金については、公共工事評価委員会の評価結果を尊重し、事業中止としたことから返還は生じない。また地権者の負担も生じない。

答弁

区画整理事業の廃止決定した面積より多い38.9haを地区計画区域として決定している。当該地区は中学校や町立病院等の公共施設や日常生活のための利便施設が立地しており、高齢者等も安心して暮らせる住環境を兼ね備えた優良住宅地とすることを目標に、新たなまちづくりを推進していく方針である。これらの実現のため、建築物の形態・意匠・垣、敷地面積、高さ、壁面の位置等の規制をするほか、街路である猪苗代中央線、千代田線については各個人より買収して整備し、地区施設道路については、道路敷水路敷を利用し整備することとしている。

臨時職員の勤務実態と 待遇改善

渡辺

臨時・嘱託職員の人数と賃金実態及び勤務内容は、正職員と比較すると待遇の差が極めて大きい。改善すべきではないか。

答弁

役場内における臨時職員は13名、嘱託職員が7名であり、正職員全体に対する臨時職員・嘱託員の賃金は4%弱である。嘱託員は専門性が強く業務に対する影響は大きい。臨時職員は雇用情勢の悪化に伴う仕事の分かち合いと職員の労働時間減少が目的である。待遇については、規則に基づき賃金・期末手当の支給・有給休暇等について対応している。正職員には様々な義務と責任が課せられているほか、職員として自覚・士気を高めるためにもある程度の差は必要であると考えている。しかし、嘱託員は長期の雇用となるため、休暇等についての改善を検討する。

長沼

町道名古屋町打越線の早期改良整備はどう考えているのか。また、事業廃止による第6次振興計画との食い違いをどう見直すのか。

答弁

この路線は、長期にわたり整備を待っていた、だいていた経過もあり早期に整備をしていきたい。

食い違いについては、このたびの補正予算に計上している猪苗代町都市計画マスタープランの見直しを行い、まちづくりの基本方針が出たなかで猪苗代町振興計画の実施計画見直しを行う。



道幅の狭い名古屋町打越線



いずれは更新が必要となる配水池

水道事業の長期見通しは

渡辺

水道使用量は減少の一途をたどっている。人口は減少していくと見込まれ、使用量はさらに値上げとなるのでは。今後、耐用年数を経過した浄化設備の更新等も必要となる。水道事業の長期計画は策定しているのか。大幅な値上げとならないか。

答弁

平成33年までは策定済である。20年以内に法定耐用年数が超える水道管は32%程度。水道使用量の減少による影響は水源地の統合と上水道と簡易水道の統合による合理化等で対応していく。



渡部 英一 議員

スポーツ振興宣言の町に ふさわしい具体的施策は

渡部 県立猪苗代高校へのスポーツ科新設運動の進捗状況は。

答弁 実現に向け、会津総合開発協議会の最重点事項とし、県並びに県教育委員会へ強く働きかけをしている。住民への広報活動も必要。署名、陳情活動は時期尚早と考える。

渡部 合宿の里構想の具体的施策は。

答弁 合宿の里ふくしま推進事業に参加していく。

外来種生物の 駆除対策を伺う

渡部 外来種生物が年々増加しているが町の対策は。

答弁 本町周辺は特に魚類はオオクチバス類やブルーギル、甲殻類でウチダザリガニ、植物ではオオハンゴンソウが確認されている。特に問題はバス類、ブルーギルの捕食による在来魚類の減少で、漁業組合の駆除活動が精力的に行われているが完全駆除は困難である。今後も環境省や保護団県、漁業組合、NPO団体と連携し更に適切な対策を講じ生態系と自然環境保持に努める。



渡辺 二公 議員

渡部 具体的で積極的な施策でなければ他市町村に負けてしまう。必死さが足りないのではないか。

答弁 町の体育施設の一般開放を早期に行うため、3月中旬に調整会議を開くよう努力する。町独自の補助金について即答はできないが、積極的に進めたい。

渡部 「野球場」として取得した運動公園隣の非農用地が、この度企業誘致候補地に変更になったのはなぜか。

答弁 当時と状況が変わった。野球チームが少なくなったことや、野球場が3面増えたことによるもので、時代の変化に対応していく。

渡部 各種スポーツ大会誘致活動の現状は。

答弁 今後は各種団体と連携を深め、積極的に誘致活動を進めたい。

父子家庭の現況を伺う

渡部 町の父子家庭は何戸か。また、8月から父子家庭に児童扶養手当が新たに支給されるが対応は。

答弁 父子家庭は6月1日現在で54戸である。児童扶養手当は本人申請なので役場窓口で必要書類を添えて手続していただくことになる。なお、該当するご家庭に認定請求書を個別に送付しており、8月号の町広報誌でも周知をしている。

有害鳥獣駆除の対策を伺う

渡部 熊による人的被害の対応と、熊・猿・ハクビシン等による農作物被害への対策は。

答弁 7月21日町営牧場で山菜取りの男性が熊に襲われ、頭部、上腕部に怪我を負った。直ちに警察と駆除隊員に緊急出動を要請し、当日午後には周辺の山林を探索し地域の住民には広報車で周知した。猿については5月に県の承認を受け、年間を通し駆除が可能となり、区長、被害者の要請で銃器での追い払

渡部 大会イベント等へ支援協力は。

答弁 大会イベント等への共催、後援、人的支援、教育振興事業に係る補助金等については、基準に則っていれば、対応していく考えである。



さらなる支援が期待される各種大会イベント



捕獲された130kgの熊

いが出来る事になった。ハクビシンによる被害も多く、玉ねぎ、トマト、スイカなどである。水稲については当町で初めてイノシシによる被害を3件受け、捕獲民を購入し対処している。カワウの駆除は8月に3回行い、22羽捕獲したが今後も駆除を検討中である。

渡部 有害鳥獣の出にくい環境づくりも必要ではないか。

答弁 人家周辺の遊休農地や動物が隠れる場所をなくし、餌となる生ごみや農作物を早期収穫するなど集落に入れない環境をつくる。また駆除隊の追い払いや電気柵、発光ライト等組み合わせる様々な対策を講じている。



五十嵐ミエ子 議員

保育士・嘱託職員の

待遇改善を

五十嵐 嘱託員として勤務している保育士の勤務・労働条件は、正職員と比較してどのようなになっているのか。

答弁 労働条件は正職員と同様である。保育所では延長保育と土曜保育を実施している。3交代での保育となっており、週休日を計画的に取得していただいている。報酬・有給休暇等については規則に従い支給し、社会保険等へも加入している。

五十嵐 正職員と同じ勤務条件なのに報酬・休暇等の待遇が違うのはおかしいと思うが。

鳥獣害防止対策は

渡部 昨年と比較し、現在までの被害状況は。

答弁 昨年のツキノワグマによる農作物被害は目撃件数を含めると48件、捕獲が2頭であった。今年は農作物被害、目撃情報、人的被害合わせて70件、捕獲7頭である。ハクビシンは昨年が被害17件、捕獲9匹で、今年は被害5件、捕獲が14匹となっている。そのほか、猿、イノシシ等による被害が多数出ており、主に野菜、果物、トウモロコシ、水稲の被害が増えている。



渡部 博幸 議員

答弁

嘱託職員と正職員との立場の違いについては、採用する際に充分納得していただいたうえで、お勤めいただいているものと理解している。規則に違反していることはなく、幼児教育の充実を図り、安心して幼稚園・保育所に子供を預けられる環境づくりのために町は誠心誠意努力すべきと考えており、現場の方々にも、よくご理解を頂いたうえで精進していただきたい。

みんなに喜ばれる堆肥作りを

五十嵐 優良堆肥製造施設から悪臭が漂っているという声が寄せられるが、構造上問題はなかったのか。

答弁 悪臭・騒音については定点調査を行っており、昨年は特に人体に感じるようなものはないという結果であった。「匂い」という感覚は、その時々、天候や気温、湿度等の周囲の状況にくわえて、感じる人の身体的・心理的状況によっても左右され、ある程度の個人差もある。今後も施設周辺の環境調査をしながら、人体はもちろん、環境に優しい良質な堆肥づくりを目指していく。

渡部

被害対策への支援は考えているのか。

答弁 有害鳥獣による被害には農作物の管理とは違う労力・費用等が必要とされることから、被害防止策への支援については今後検討していきたい。

渡部

有害鳥獣駆除隊員の委嘱及び年間出勤回数は。また、高齢化する状況で、人材をどのように確保するのか。

答弁 8月6日付けで非常勤特別職として17名の方々を委嘱している。昨年度は113回、延べ286人が出勤し、本年度は現在までに100回、延べ265人が出勤している。

駆除隊員の高齢化については大変危惧をしている。平均年齢は63歳であり、最も高齢な方で81歳、若い方で43歳である。今後、駆除員の方には誇りと責任を持ち取り組んでいた、できるような、できる限りの支援をしていきたい。

観光振興について

渡部 沼尻高原の「白糸の滝」見晴し台周辺の整備はどうなっているのか。

五十嵐

幼稚園と保育所をなくして「認定こども園」にすることについて、川東地区住民全体の納得・理解を得ているのか。

答弁

今年の4月・8月に、関係区長、保育所・幼稚園の保護者及び地域住民を対象に説明会を開催した。出席された方々には概ね理解を頂いたものと認識している。出席されなかった方々には、今後必要に応じて説明会を開催し合意形成に努めていく。



運動会でダンス！

※その他の質問 会津磐梯山全国大会について



整備予定の「白糸の滝」見晴し台

答弁

駐車場は整備されている。老朽化している鉄柵、木製イス等は次年度予算を確保し整備していく。

渡部

町の観光客誘致に対する今後の取り組みは。

答弁

観光客は毎年減少傾向である。現在実施している会津地域、山形県との連携事業を23年度からも前向きに進めていくことで検討中である。(社)猪苗代観光協会の旅行業登録認可に伴い、各種大会等による宿泊客の配宿を行っていく。

委員会レポート

文教厚生常任委員会

「川柳」によるまちづくり ～岡山県久米南町～

久米南町は町の文化振興政策として「日本一の川柳の町」を宣言し、町のシンボルとなっている。

川柳での町づくりの歴史は、昭和24年に「エンピツと紙さえあればどこでもできる」という発想から取り組みが始まった。その年、第1回西日本川柳大会を開催し、その後毎年開催されている。大会は全国から3000人ほどの方から投句があり、前夜祭にはさまざまなイベントが行われている。

町のシンボルゾーンとして、「川柳の小径・公園」が整備され、全国から寄せられた200以上の句碑が建てられている。また、「川柳でつなぐ地域と学校」推進協議会が設立され、小学校の川柳授業公開や町内すべての小・中学校から募集した川柳句集を発刊するなど、教育分野においても学校を通し家庭や地域にも川柳の輪が広がっている。

川柳を通して子供たちと保護者のふれあいが深まったことや、文章を考える力・書く力が上達し、進学校への入学が多くなったなど成果も現れている。また、町の特産品の包装紙や、お菓子に川柳の句が使われることで町をPRしているほか、町立図書館には川柳コーナーが設けられるなど、町民、地域、町全体のあらゆる部分に川柳が溶け込んでいる町であった。

伝統的工芸「熊野筆」によるまちづくり ～広島県熊野町～

熊野町での筆づくりの始まりは約170年前、江戸時代

くめなん くまの
視察研修：岡山県久米南町・広島県熊野町

の末期、出稼ぎに出ていた農民が筆や墨を行商し、それらを持ち帰ったのがきっかけで「熊野筆」が生まれた。現在は毛筆、画筆、化粧筆の国内生産の約8割を占める「筆の都」として発展している。最近では、化粧筆の品質が海外で評価されメイキャップやブランドメーカーとの取引に活路を広げている。毎年11月に開催される全国書道画展覧会では全国の小・中学生から50万点以上の作品が寄せられ、2500点が表彰される。また、9月の「筆祭り」や3月の「筆の日」には筆にちなんだイベントが行われ約20万人の観光客が訪れる。

平成6年に拠点施設として「筆の里工房」が建設され、ギャラリーやホール、アトリエでは筆を使ったさまざまな教室の開催、作品の展示・紹介をしている。来場者数は21年度76000人であり、管理・運営は財団法人を設立し、運営している。21年度の運営費は約1億4000万円で150万円の黒字となっている。



職人による筆作り

総務常任委員会

環境新エネルギーと安心農作物 ～山口県平生町～

平生町は、平生町地域新エネルギービジョン地方公共団体等における新エネルギー（太陽エネルギー・風力エネルギー・バイオマスエネルギーなど）導入の促進を図ることを目的に、平成7年度からはじまった「地域新エネルギービジョン策定等事業（NEDOによる補助事業：100%補助）」を活用し、地球温暖化を引き起こす温室効果ガスの削減という国家的目標の達成を第1義とし、地域振興や教育効果といった視点についても配慮しながら、ビジョンづくりを進めた。

(1)風力発電に関する取り組み
イ、平生町の幸せをつむぐ7つの風車（夢風車くるる）

風車1基で1200世帯の電気をまかなう風車を7機設置 町への固定資産税の収入が1基当たり3000万円（17年間）となっている。

ロ、公共施設への太陽光発電導入
ハ、竹林バイオマス発電による循環型社会形成プロジェクト

二、街路灯への太陽光発電システムの導入
(2)あんしん農産物について

平生町有機農業推進計画により、環境保全と生産性との調和に配慮しつつ、安全安心な農産物の生産に取り組む。

イ、ひらお・こだわり栽培農産物
農産物に「金」農薬は不使用で有機質肥料を3年以上使用し化学肥料及び除草剤を3年以上使

ひらお たぶせ
視察研修：山口県平生町・田布施町

用しないもの。
「銀」農薬は不使用で有機質肥料を使用し化学肥料及び除草剤を使用しないもの。
「銅」農薬は最小限使用し 有機質肥料を使用化学肥料及び除草剤は使用しないもの。

ロ、ひらお特産品センター
ハ、ひらお農業体験園・栽培教室

議会活性化・議会広報 ～山口県田布施町～

田布施町では、議会の活性化について、2003年の全国版の議会だよりに掲載した「わが議会の取り組み」について説明をいただいた。

その後、全国の議会だよりの部門で1位になった「議会だより第65号」を中心に、広報のあり方について説明をいただいた。



安心農産物を販売する「ひらお特産品センター」

経済建設常任委員会

フランド野菜による農業振興 ～京都府京丹波町～

京丹波町の農業生産物は、中心となる米をはじめ、重点転作物として生産を奨励してきた「丹波の黒大豆や小豆はこの地域のブランドとして定着しており、さらに最近ではハウス施設による高品質なブランド京野菜などの生産に力を入れている。

また、京都府下でも有数の畜産地帯で、乳用牛、肉用牛や養鶏などの産出額は町内の総農業生産額の半分以上を占める主要産業となっている。

今後の課題としては、地元の特産品の開発や特産品販売を流通に乗せる体制の確立、働き甲斐のある魅力ある職場づくりなどがあげられるが、特に朝市は、地区内で日常生活を営んでいる住民を会員とする「わちふれあい朝市の会」を設立し、当初会員が30名程度でしたが現在では155名になり、野菜の売上高も平成15年の3200万円から平成22年3月には8200万円まで増えており、小規模農家の収入の助けになっている。

世界遺産と観光振興 ～奈良県斑鳩町～

斑鳩町を訪れる観光客数は平成元年には141万人だったが、平成11年ごろから一時60万人台までに落ち込み、現在は95万人まで回復した。近年は個人旅行が増加し、散策・回遊型や体験型など形態も多様化しており、

きょうたんば いかるが
視察研修：京都府京丹波町・奈良県斑鳩町

斑鳩町でもこういった新しい観光の潮流に対応できずに法隆寺のみを参拝する拠点通過型観光が中心となっており、今後は、回遊型、滞在型観光を推進し、地域経済への波及を高めることが課題であり、そのため、現在では観光協会や文化振興財団などを中心に、観光ボランティア活動や各種催しなど、住民による活発な文化・交流活動が行われている。

議会活性化の取り組みについては、平成19年4月の一般選挙から議会活性化に取り組み、議員定数は改正前16名であったものを1名減で15名とし、これに合わせて議員報酬を7%カットした。また、常任委員会への複数所属制度を導入し、新たに予算決算常任委員会を設置。広報発行特別委員会も広報発行常任委員会へ変更した。



京丹波町の地元農産物を販売している道の駅「和（なごみ）」

各種委員の同意

猪苗代町教育委員

任期満了につき、次の方を任命することについて、議員全員が同意しました。

土屋 保則 氏（堤崎）

人権擁護委員

任期満了につき、次の方を推薦することについて意見を求められ、議員全員が同意しました。

山田 猛夫 氏（名家）

あなたの声を審査しました
9月定例会で審議された請願は、次のように決まりました。

《採択》

○楽天イーグルスフィールドサポートプログラム契約締結に関する請願

提出者：「野球少年と町を応援する会」NGクラブ
事業委員会 小川 竜平 氏
紹介議員：関沢和人議員

文教厚生常任委員会

議会活動

会津耶麻町村議会議員研修会

9月30日に猪苗代町、磐梯町、北塩原村、西会津町の各議員が出席のもと、北塩原村「ラビスパ裏磐梯」において開催されました。会津地方振興局長 島 利行氏（元FISフリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会事務総長）による「会津北部の地域振興について」と題した講演を聴講しました。

※10月25日に「福島県町村議会議員研修会」が開催予定です。

会津耶麻町村議会議員研修会



講演する島氏

議長杯ソフトボール大会

8月22日に運動公園にて開催されました。議員チームも参加するなか、全8チームの熱い戦いが繰り広げられました。「エルフレンズAチーム」が見事優勝されました。

おめでとうございます！！



議長による始球式

議長杯ゲートボール大会

9月25日に運動公園町営コートにて開催されました。議会チームも2チーム編成で参加し、全14チームによる戦いが繰り広げられました。どのチームも高いテクニックを持っておられ、「小田チーム」の皆さんが優勝しました。おめでとうございます！！



仲良く楽しくプレーしました！！

特別委員会が設置されました

9月定例会において、2つの特別委員会が設置されました。任期は平成23年9月定例会までです。

有機の里構想調査特別委員会

これからの地方自治体は、国の指導・監督に依存することなく、自ら考え、行動する自主・自律の主体性を持つことが重要とされています。

本町としては、この具体的施策として「有機の里構想」を基本理念とし、「蕎麦の里宣言による地産地消の推進」「母から子への手紙による絆づくり」さらには「優良堆肥製造施設による有機性資源の利活用」などの事業により、循環型地域社会の形成を図ることとしており、本年度には「食料自給率向上推進計画」を策定しました。

よって、議会においても調査を行うため「有機の里構想調査特別委員会」を設置します。

《委員構成》

委員長	安藤 貞一
副委員長	渡辺 二公
委員	五十嵐 ミエ子
	後藤 公男
	渡部 博幸
	長沼 一夫
	長谷川 与一
	神田 功



定住化促進調査特別委員会

急速に進む少子高齢化と人口減少は、地方自治体にとっても大きな問題となっています。

本町においても、「中学生までの医療費無料化や認定こども園の整備による子育て支援」、「企業誘致による雇用の創出」さらには「旧雇用促進住宅の取得や民活による二地域居住・定住化の促進」など、様々な施策によりその対策を講じています。

よって、議会においても調査を行うため、8人の委員で構成する「定住化促進調査特別委員会」を設置します。

《委員構成》

委員長	渡辺 真一郎
副委員長	穴沢 進
委員	大橋 清喜
	佐藤 光幸
	渡部 英一
	山田 長平
	関沢 和人
	鈴木 武喜



町民の声



千里地区
小松山ナミ子 さん

雪の季節を前にして

暑い夏が終わったばかりで、ちよつと気が早いかも知れませんが、間もなく訪れてくる厳しい冬の降雪量を今から心配しています。どの位降るのか、ほどほどの雪であり生活に支障がないといいのだが、冬を前にしてこんな思いを抱くのは私一人ではないと思います。

猪苗代は幹線道路の除雪はバッチリで、朝早くから出勤して作業にあたっている人には頭の下がる思いです。しかし、道路までの出入口などはどうしても人の手に頼らなければならず、大変な思いでスノーダンプやらスコップで雪かたしをしています。特に、

一人暮らし高齢者の方々にはこの重労働は非常に負担であり、悩みの種であろうと思います。そこで、無料除雪券なるものを作って、業者や地域の方など誰にでも気兼ねなく除雪の依頼が出来るようにしたら、少しは気が楽になり、安心出来るのではないのでしょうか。

「夏の猪苗代は最高なのだが冬の雪かたしが大変だね」という声をよく聞きます。親雪・利雪などと言われますが、高齢の方のみならずあまりの大雪は邪魔者でしかありません。このような雪の問題が少しでも減っていくような対策があればと考えます。

話は変わりますが、町民に議会の動きをより早く伝えようと「議会だより」の早期発行に努力している姿勢はすばらしいと思います。収録したテープを起こして文章にすることは簡単なように見えますが、なかなか時間がかり根気のいる大変な作業です。何事にもその熱意を持って取り組んでいただき、今後の活躍に期待するものです。



防災訓練

傍聴においで下さい

12月議会
12月6日
(月曜日)
開会予定です。

※傍聴手続きは
簡単です。

編集後記

議会だよりを読んでいただきありがとうございます。

私たち広報委員は、議会だよりをできるだけ早く発行することを考え編集作業に取り組んでおります。

記事をみんなで分担し音声を聞きながら原稿を作成し、また、議会だよりの顔である表紙の写真や、一般質問に合った写真などをみんなで撮影しあい、編集作業内容や編集体制、印刷所との工程などチェックし、効率的な編集ができるように、知恵と力を出し合っています。

今後も、具体的な内容、タイトルの付け方など、議会活動を公開するための研究をしながら、町民の皆さんが身近に感じ、読みやすい議会だよりを発行していきたいと思っております。皆さんのご意見を、どんどんお寄せ下さい。

五十嵐 ミエ子

議会広報編集特別委員会

委員長	渡部 英一
副委員長	渡辺 二公
委員	大橋 清喜
委員	渡辺 真一郎
委員	五十嵐 ミエ子
委員	佐藤 光幸
委員長	鈴木 武喜